

# 第5分科会

## 眼科

〔座長〕 猪俣 俊晴（埼玉県眼科医会 会長）  
正田 政一郎（埼玉県医師会 理事）

1	浦安市H小学校新入学から6年間での屈折異常変化	千葉県医師会	川端 秀仁
2	学校保健委員会活動報告を目にしていつも思うこと	岩手県医師会	鈴木 武敏
3	学校保健委員会 講話のポイント	神奈川県医師会	鈴木 高遠
4	学校でのスポーツ眼外傷の実態と対策	大阪府医師会	宮浦 徹
5	学校現場における石川県版「コンタクトレンズ（CL）管理手帳」に関する調査	石川県医師会	望月 雄二
6	子どもたちの眼鏡の危機	岩手県医師会	鈴木 武敏
7	学校の色覚検査の神奈川県での現状	神奈川県医師会	宇津見 義一
8	秋田県における色覚検査の実施状況と色覚異常の認識度の調査	秋田県医師会	浜野 浩司
9	新しい色覚異常対応チョークは有効か？	東京都医師会	田中 寧
10	5-10は演題取り下げとなりました。		
11	山形県寒河江市における他覚的検査（屈折検査と眼位検査）を用いた三歳児眼科健診の検討	山形県医師会	林 思音
12	宮城県眼科医会における園児に対する視力検査実施のための取り組み	宮城県医師会	小林 茂樹
13	学校健診を契機に小児病院を受診した症例の特徴		神部 友香
14	小学生の眼軸伸長を加速させる眼球形状	鹿児島県医師会	山下 高明
15	斜視に対してボトックス治療を行った小児例	吉川松伏医師会	鈴木 利根

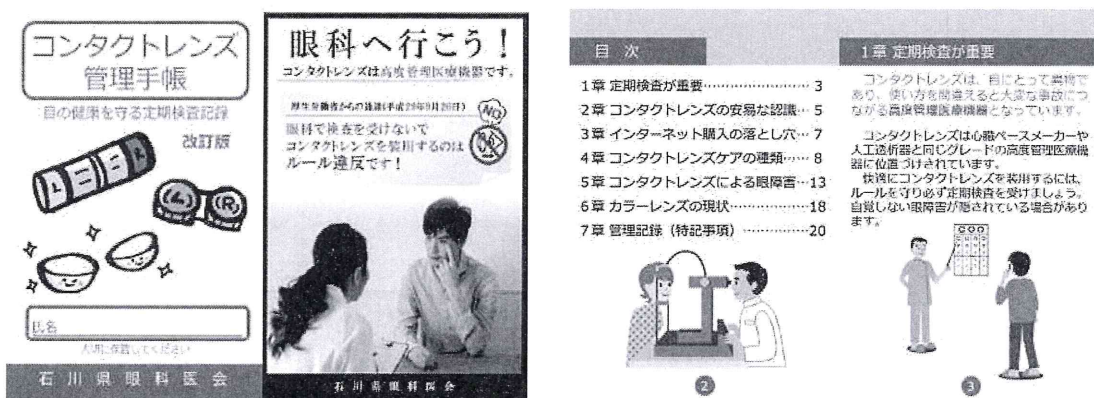
## 5-5：学校現場における石川県版「コンタクトレンズ（CL）管理手帳」に関する調査

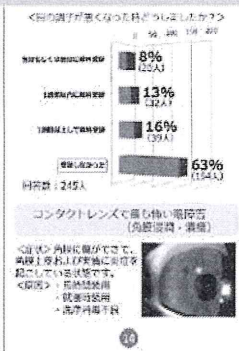
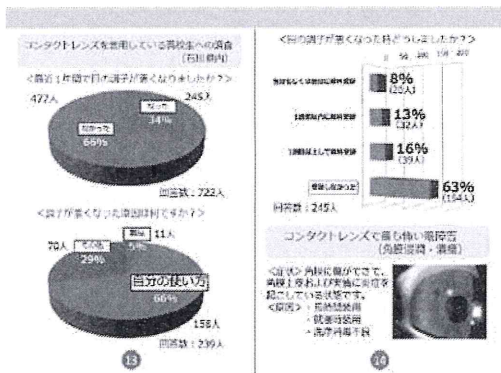
石川県医師会・石川県眼科医会、医療法人社団 望月眼科医院 望月 雄二

緒言：近年、学校現場ではCL装用者の低年齢化、部活の時だけCL装用、CL装用のまま就寝、おしゃれ感覚でカラーCLを装用、初めてのCL装用なのにネットで購入しYouTubeで装用指導など、生徒がCLに関して正しい情報を持っているかは疑問である。また厚生労働省は2017年9月に都道府県知事宛に4回目の局長通知「コンタクトレンズ適正使用における情報提供等の徹底について」を発出した<sup>1)</sup>。これには罰則規定がないため、その後も局長通知を無視したCL販売が行われているところも多い。また最近ネット販売が増加し、眼障害も増えている<sup>2)</sup>。このような環境下において、若年のCL装用者に正しい情報とCL装用規則を守るためのアドバイスを眼科医は与える必要があると考える。石川県では2018年7月、CL情報とCL患者管理ができる手帳「コンタクトレンズ（CL）手帳」（表1）を作成し、学校現場に配布した。同時に養護教員を対象にアンケート調査も実施したのでその結果を公表する。

目的：学校現場においてCLに関する正しい情報と定期検査の重要性を認識してもらい、CL眼障害を減少させることが目的である。石川県版「CL管理手帳」を学校現場でどのように活用すればCL眼障害を減らす事ができるか、アンケート調査結果を知ることにも目的の一つである。

表1 コンタクトレンズ管理手帳の主な内容



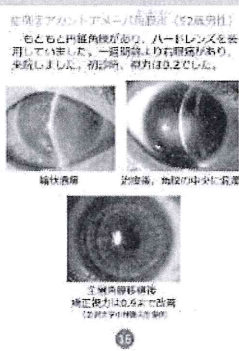


コンタクトレンズによる重篤な眼障害  
 コンタクトレンズの取り扱いや変更に誤っていると、重篤な眼障害が発生し、視力や視覚機能が低下を伴うことがあります。場合によっては失明の原因にもなり得ます。そのため、取り扱いには十分注意し、少しでも異常を感じたら眼科を受診しましょう。

眼の異物感による眼障害 (18歳女性)  
 2タイプタイプのソフトコンタクトレンズを使用しており、前日より異物感を訴えて来院しました。使用開始の2週間前には行っていましたが、コンタクトケースの洗浄や交換はしていませんでした。

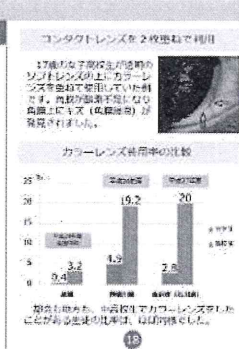
角膜正視力が片目動作 (目の動きが動くのが見える状態) 異物感も片目は0.1まで低下していました。

角膜正視力：片目動作 (目の動きが動くのが見える状態) 異物感も片目は0.1まで低下していました。



6章 カラーレンズの現状  
 平成28年有年次国民生活アンケートの調査によると、眼鏡やコンタクトレンズの着用率は、男性は約70%、女性は約80%と増加傾向にあることが判明しました。その中でも、カラーコンタクトレンズの着用率は、男性は約10%、女性は約15%と増加傾向にあります。また、カラーコンタクトレンズは、視力矯正だけでなく、ファッションアイテムとしての役割も果たしています。そのため、カラーコンタクトレンズの普及率は、今後さらに高くなっていくと予想されます。

カラーレンズの写真を拡大して見ると、レンズの裏面に色料が塗られています。この色料が、紫外線や熱によって変色したり、剥がれたりすることがあります。また、カラーコンタクトレンズは、通常のコンタクトレンズよりも厚いため、酸素透過性が低くなる傾向があります。そのため、長時間の着用は避け、定期的な点検を受けることが大切です。



年月日	氏名(姓・名)	性別	学年	CL着用	備考
年				可・中止	
月				可・中止	
日				可・中止	
年				可・中止	
月				可・中止	
日				可・中止	
年				可・中止	
月				可・中止	
日				可・中止	

特記事項

方法：2017年2月にも養護教諭にお願いし、CL着用している高校2年生を対象にアンケート調査を行った。「目の調子が悪くなった原因は何ですか?」「目の調子が悪くなった時どうしましたか?」の設問に、生徒から回答があった。

2019年2月、石川県内の中学校87校・高校55校(合計142校)に「CL管理手帳」各100冊無料配布し、そのあと中学・高校の養護教諭にアンケート調査を実施した。学校での健康診断時にCL着用者へ「CL管理手帳」を配布したり、「CL管理手帳」希望者には保健室で手渡したり、配布方法は各学校に一任した。アンケート調査では養護教諭に4つの設問をし、それぞれの設問に「はい」「いいえ」で答えて頂いた。

結果：CLを着用している高校生への調査では、調子が悪くなった原因が「自分の使い方」と回答した生徒は158人/239人(66%)、「製品に問題あり」が11人/239人(5%)であった(図1)。目の調子が悪くなった時の対応では、当日か翌日に眼科を受診した生徒は20人/239人(8%)、1週間以内に眼科受診したのは32人/239人(13%)、1週間以上して眼科受診した生徒は39人/239人(16%)、眼科受診しなかったのは154人/239人(63%)であった(図2)。

中学校・高校142校中、回答があったのは57校(40%)であり(表2)、養護教諭から、CL管理手帳の内容が「丁度良い」と回答したのは42校/54校(78%)、「難しい」が12校/54校(22%)、「回答なし」が3校であった(図3)。「学内でCLによるトラブルが発生したことあり」と回答した学校は43校/54校(80%)で、中学校が31校/39校(79%)、高校が12校/15校(80%)であった(図4)。養護教諭自身がCL着用している割合は36校/57校(63%)であり(図5)、そのうち眼科医療機関で定期的に検査を受けている教諭は32名(89%)、時々受けている教諭は2名(5%)であった(図6)。



表 2

## アンケート実施

実施期間：2019年2月13日～2月23日

回収方法：CL管理手帳とアンケート用紙を郵送後にアンケート用紙をFAX返信

	学校数	アンケート回答数	回収率
中学校	87	42	48%
高校	55	15	27%
合計	142	57	40%

図 2

＜目の調子が悪くなった時どうしましたか？＞

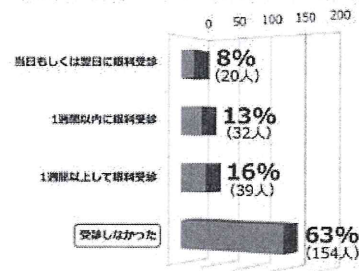


図 4

これまでコンタクトレンズによりトラブルを発生した生徒はいますか？

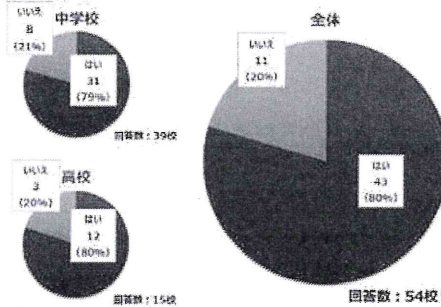


図 6

前問で「はい」とお答えになった養護教諭にお聞きします。

コンタクトレンズを装着時、眼科医療機関で定期検査を受けたことはありますか？

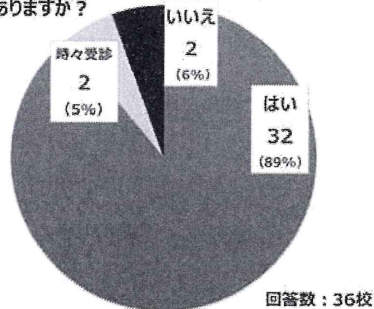


図 1

コンタクトレンズを装着している高校生への調査  
(石川県内)

＜調子が悪くなった原因は何ですか？＞

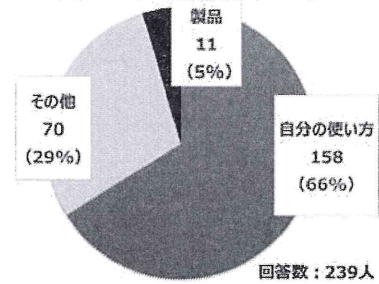


図 3

「コンタクトレンズ管理手帳」の内容は全体的に生徒に対してどのように思われますか？

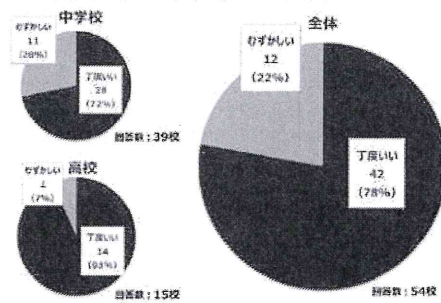
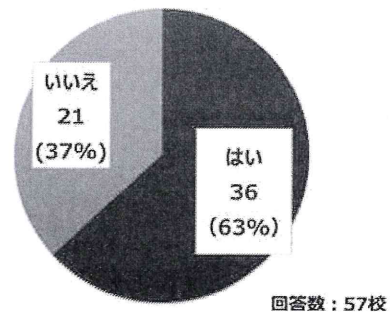


図 5

教諭自身はコンタクトレンズを装着していますか？  
或いはこれまでに装着したことがありますか？



考察：2017年2月の高校2年生を対象とした調査では、CL装用者で目の調子が悪くなったのは「自分の使い方が原因」と回答した人は66%と多く、目の調子が悪い時は眼科受診はなく、じっと我慢して様子を見ていた生徒が63%もいたことには驚いた。また今回の調査によると中学校でも高校でもCL眼障害発生率は約80%と同率であったことは、中学生も高校生もCLに関する認識は同等レベルであることが予想される。

今日まで厚生労働省から4回局長通知が発出されたが、一般国民は勿論、CL装用者にどれだけ通知が行き届いていたかは疑問である。つまり、これまでの局長通知は眼科医療機関やCL販売店では承知しているが、CL装用者にはほとんど知られていないのが実情である。つまり、「医師の指示に基づく販売」「定期的な眼科受診勧奨」「処方せん不要や検査不要は不適切」などがどこまで守られているか。来院するCL装用者に聞いても、CL販売店から情報をもろうことはほとんどない様である。従って、石川県眼科医会では全国に先駆けて「CL管理手帳」を作成し、眼科医会会員で「CL管理手帳」を希望する眼科医療機関や中学・高校へ初期セットを無料配布できた。CL管理手帳作成にあたり、製薬会社2社とCLメーカー6社の協力を得て実現できたことに改めて感謝する。

CLは2005年4月、改正薬事法により高度管理医療機器（クラスⅢ）となり、使用方法を間違えると大変な事故を招くことや眼科で検査を受けずにCLを購入することはルール違反であること（医師の指示に基づく販売）を「CL管理手帳」によってCL装用者に知ってもらうことができると確信する。今後のCL診療を考えるにあたり、若年層には是非「CL管理手帳」の内容を熟知してもらうことが必要で、将来的には携帯アプリやYouTubeでの啓発も重要と考える。しかし携帯アプリやYouTubeは費用と時間を考えると決して容易ではない。従ってとりあえずこの「CL管理手帳」を若年者にも広め、できるだけCL眼障害を減らすように今後養護教諭の協力も重要と思われる。

結論：過去4回の厚生労働省局長通知は眼科医療機関やCL販売店には届いているが、CL装用者にはほとんど届いていないのが現状である。そのためCL装用者への教育（啓発活動）は絶対に必要である。石川県眼科医会では2017年2月から学校現場でCLに関するアンケート調査を行ってきた。その結果、若年者への啓発にも「CL管理手帳」が有効であり、特に学校現場では養護教諭を通じてCLへの教育が重要と思われた。

#### 文献

- 1) 神鳥高世：新しい局長通知はコンタクトレンズ適正販売の一助となるか 日本のお眼科 89:143.2018
- 2) 盛隆興：コンタクトレンズによる眼障害  
アンケート調査の集計結果報告（平成30年度）